

ゲノム編集とデジタル技術でミライを拓くスタートアップのプラチナバイオ、 第三者割当増資によりシードラウンドの資金調達を実施

国産ゲノム編集技術の事業化を推進し、新たなバイオビジネスを展開

プラチナバイオ株式会社(本社:広島県東広島市、代表取締役 CEO:奥原 啓輔、以下 プラチナバイオ)は、広島大学認定ファンド「広島大学・広島県内大学発ベンチャー支援投資事業有限責任組合」を引受先とした第三者割当増資を実施し、シードラウンドの資金調達を完了しました。

今回調達した資金により、国産ゲノム編集技術の事業化を推進し、新たなバイオビジネスを展開します。

■ シードラウンド引受先

- ・広島大学認定ファンド「広島大学・広島県内大学発ベンチャー支援投資事業有限責任組合」
(運営者:株式会社広島ベンチャーキャピタル)



■ プラチナバイオについて

プラチナバイオは、広島大学ゲノム編集イノベーションセンター・山本卓教授らの国産ゲノム編集技術「Platinum TALEN」を核にして設立された、スタートアップ企業(広島大学発ベンチャー)です。

産学共創のオープンイノベーションにより、ゲノム編集×デジタル技術の社会実装を加速させ、「フード&アグリテック(SDGs 2番:飢餓をゼロに)」、「創薬支援、細胞医療(SDGs 3番:すべての人に健康と福祉を)」、「藻類エネルギー(SDGs 7番:エネルギーをみんなにそしてクリーンに)」や「国産ゲノム編集技術の開発(SDGs 9番:産業と技術革新の基盤をつろう)」への貢献を目指しています。

これまで、JST 産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム(OPERA)、社会還元加速プログラム(SCORE)、東京都創薬系ベンチャー育成支援事業「Blockbuster TOKYO」、公益財団法人ひろしまベンチャー育成基金、広島県、東広島市、広島大学オープンイノベーション事業本部(HOIP)をはじめ、様々な機関からのご支援により、国産ゲノム編集技術の事業化の取組みを推進してまいりました。

■ シードファイナンスの使途

- ・TALEN ライセンスの取得
- ・国産ゲノム編集技術「Platinum TALEN」の事業化推進

■ プラチナバイオ 代表取締役 CEO 奥原啓輔のコメント

2020年ノーベル化学賞受賞が、カリフォルニア大学バークレー校のジェニファー・ダウドナ博士とマックス・プランク研究所のエマニュエル・シャルパンティエ博士の「CRISPR-Cas9の開発」に対して授与され、「ゲノム編集」がバイオ産業に革命を起こすと期待されています。その一方で、「CRISPR-Cas9」の知財紛争が事業化の障壁となっており、我が国のバイオ産業は危機的状況に陥っています。

プラチナバイオは、我が国のバイオ産業が国際競争の中で、革新的な製品・サービスによるイノベーションを創出するためには、産業利用しやすい国産ゲノム編集技術と、スタートアップによる素早い社会実装が必要不可欠と考え、その事業化を推進してまいります。

■ 会社概要

会社名: プラチナバイオ株式会社

役員: 代表取締役 CEO 奥原啓輔、取締役 CTO 山本卓

設立: 2019年8月30日

所在地: 広島県東広島市西条西本町28番6号

URL: <https://www.pt-bio.com/>



以 上

■ 本件に関する報道からのお問い合わせ先

プラチナバイオ株式会社 総務部

TEL: 050-5361-0865 E-mail: info@pt-bio.com